



右写真(左から)
=高野町長 平野嘉也氏、
有田川町長 中山正隆、か
つらぎ町長 中阪雅則氏
左写真(左から)=有田市
長 望月良男氏、JAありだ
代表理事組合長 林隆家氏、
湯浅町長 上山章善氏、広
川町長 西岡利記氏、有田
川町長 中山正隆

日本で初めて、みかん栽培を生計
の手段にまで発展させた持続的農業
システム。農家による優良品種の発
見や産地内での苗木生産、地勢・地
質に応じた栽培や「蜜柑方(みかん
がた)」を起源とする多様な出荷組
織の共存による本システムにより、
有田地域は日本一の生産量を誇る温
州みかん産地に発展した。

- みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム
- ・団体/有田みかん地域農業遺産推進協議会(会長・林隆家)
- ・地域:有田川町・有田市・湯浅町・広川町のみかん栽培地域

野・花園・清水地域が互いに支え合
い、平地の少なさを克服している。

日本で初めてみかん栽培を生計の手段に発達させるとともに、
持続可能な開発を可能にし、
当地域を日本一のみかん産地に発展させた持続的農業システム

みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム

1. みかん栽培の産業化

室町時代から自生みかんを栽培。安土桃山時代には熊本県から小みかんを導入し、優良系統の選抜を重ねることで「紀州みかん」を育成しています。

⇒日本のみかん産業をリード

2. 多様な品種の発見・栽培

高い観察力により、数多くの有用品種を発見し、品種のバリエーションを増やしてきました。みかん栽培との兼業で高品質な苗木(2年生・土付き苗木)を産地内で生産。

⇒産地の自立性を向上

3. 地勢・地質に応じた栽培

多様な地勢・地質の組み合わせに応じた「長所を生かし、短所を克服する」栽培を行ってきました。

⇒地域全体で「有田みかん」産地を形成

4. 販売面での優位性の維持

江戸時代、日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方(みかんがた)」を組織。以降も時代に
応じてその形態を発展させてきました。現在では多様な出荷組織が共存しています。

⇒販売面での優位性の維持

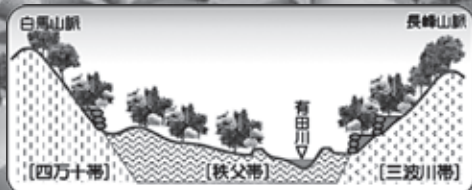
持続可能な「有田みかん」産地の発展
本システムにより400年以上にわたりみかん栽培を継承。
多くの産地が栽培面積を減少させる中、栽培面積を維持。

減酸の速さと昼夜の大きな寒
暖差による色抜けの速さを生
かした「四万十帯・北向き園
での極早生品種栽培」



日当たりの良さと本来の果実
特製を発揮する土壌条件を生
かした「三波川帯・有田川北
岸河口部・階段園での普通品
種栽培や早生品種の完熟栽培」

適度な水分保持力と「紅の濃
さ」を生む微量元素の豊富さ
を生かした「秩父帯・内陸部・
階段園での早生品種栽培」



山頂の雑木林…土壌の崩落・浸食を防止
石垣の階段園…雨水の流速を減速
⇒河川環境を維持